

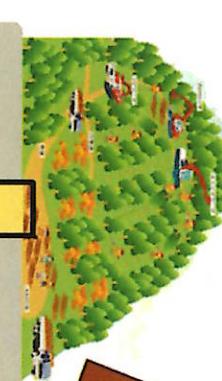
信州F・POWERプロジェクトが目指す木材需給構造

林業経営基盤づくりの推進

2015年稼働 征矢野建材(株)

新設木材加工施設(床材)
(県内最大規模)

※数量は当初計画量



間伐材等 : 10万m³

県産材製品の供給 : 2万5千m³

2020年稼働 ソヤノウツドパワー(株)

新設木質バイオマス発電施設

建築用材等に利用不可能な間伐材等 : 10万5千m³



事業主体の施設規模に対する考え方

- 集中型木材加工施設
 - ・木材製品の国際市場において、品質・価格で競争力を持ったための生産規模を考慮して決定
 - ← 木材は、国際流通商品である。

- 木質バイオマス発電施設
 - ・発電施設を単独で整備するのではなく、集中型木材加工施設から発生する製材端材を有効に活用するための施設として適正規模を選定

長野県の森林資源を、製材・加工・利用・燃焼の
「多段階」で利活用する仕組みづくり